

他者との調和を促す6色のカラー

## ハーベスト 医療福祉専門学校

兵庫県姫路市南駅前町 91-6

HARVEST MEDICAL WELFARE COLLEGE, Himeji  
Designer: Shogo Iwata

設計 岩田 尚 再建築設計事務所 岩田 尚 吾  
協力 構造 建築構造企画 中塚建築構造研究所  
設備 共同システムデザインネットワーク  
アートワーク TAKARIアルティ 江上計大 石井 春  
照明計画 AZU 設計工房  
建築 協成成建  
施工 竹中工務店 協成組共同企業体  
撮影 栗木 義典

### 多様な色による表現

今日の医療福祉系学校は、学生の教育だけではなく地域社会への医療、福祉、保育の情報発信の場として位置付けられるべきだという意図のもと、本建築は姫路市の中心地区である姫路駅前計画されました。情報発信の場として、コミュニケーションラウンジと講堂が1階に設けられ、コミュニケーションラウンジは、学生だけでなく、地域住民も立ち寄ることができる場として位置付けられ、講堂では高齢者のリハビリテーションや幼児のためのリトミックなどの講習会、語学の寄宿などが催されています。

建築はローコストながらも地域に開かれた建物として、明るく透明感のあるものを目指しました。デザインテーマは「多様な色の多様な顔れ」であり、選定した6色のテーマカラーを外観、内観、家具、サインなどに適用しています。外壁の色彩パネルの手前には、垂直メッキされた有孔折板を市松状に配置し、建物にアプローチする際の視点の移動によって、建物外観の「色の顔れ」が刻々と変化するように構成しました。

デザインテーマの「多様な色」は、価値観の多様性を表現しています。多様な色を等価に扱い、多様性をはらんだ新しい認知である「多様な顔れ」として構成することで、これからの医療、福祉、保育に関わる学生たちに期待する「多様性を許容する精神」つまり、他者を思いやり、自らと異なる価値観を理解し、認め合う敬愛の精神を建築デザインに託したものです。

(岩田尚吾)

右 フォワード。さまざまな色のパネルと有孔折板を組み合わせ、見る位置によって変化が生じるよう計画されている。





上4点 各階共用通路。6色の組み合わせによりバリエーションを生んでいる 下 3階ラウンジスペース。この他、教室の壁面などにも色が用いられている



左 階段室 右 エントランス。壁面には色をテーマに作られたアートワークが設置されている

#### 法人本部部長のひとこと

当校は、学校法人居河学園において初めての医療福祉専門学校として創設されました。同学校法人が経営する兵庫県播磨高等学校との高専一貫教育も行って、医療福祉系学校の多い地域にあって、人間としての内面を広く「心の教育」を推進し、差別化を図っています。生徒は県内在住者がほとんどで、10代から働きながら通う30代まで幅広く学んでいます。周辺住民に対し、講演や座談会を開催しており、また、子供を持つ方のための子育て教室なども行なうことで、地域に対するホスピタリティの充実に取り組んでいます。

内装は、さまざまなカラーがありながら、どれ

も日本的なものから選んでいることもあり、生徒達には「癒やされる」と好評です。

〈西川 一 文責編纂〉

#### 「ハーベスト医療福祉専門学校」データ

工事種別 一戸建て 新築  
 用途地域 地区 商業地域・法22条指定地域  
 新都市地区地区計画区域 駐車場整備地区  
 建ぺい率 制限90%>実効53.19%  
 容積率 制限600%>実効254.44%  
 構造と規模 S造 一級RC造 地上5階建て  
 敷地面積 1494.48㎡ 建築面積 794.82㎡  
 床面積 3802.50㎡ 1~5各階760.50㎡  
 工期 2007年1月27日~11月15日  
 施工協力 家具 内田洋行 日本ファイリング

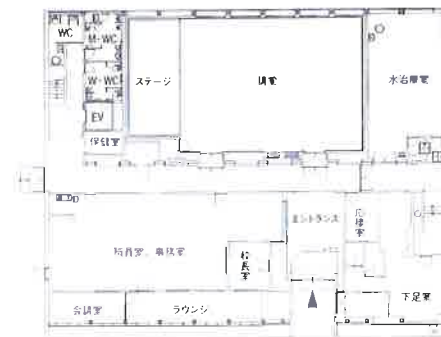
#### 施設内容

開校 2008年4月1日 休校日 土・日曜日  
 開校時間 午前9時~午後10時20分

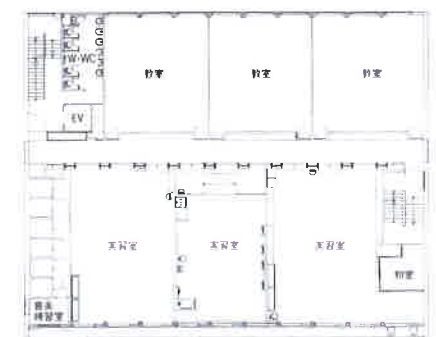
電話 079)224-1777 経営者 学校法人 居河学園  
 教育従事者 講師(兼任)27人 スタッフ4人 合計31人  
 教室数 普通教室10室 特別教室13室 合計23室  
 主な授業内容 理学療法士 介護福祉士 保育士養成のための産学 連携  
 主な付帯施設 講堂 図書室 学生用ラウンジ 保健室

#### 主な仕上り材料

屋根 〇アスファルト防水  
 外壁 〇コンクリート打ち放しの上陶水材塗布 AIC板下地セメント系保護材塗布(ジョイントV 日丸牌)の上アクリルシリコン樹脂エマルジョン塗料 アルミパネル アクリルシリコン樹脂エマルジョン塗料 アルミサッシ(システム)アルミ仕上げ ガラスカーテンウォール 有孔折板(日本パーセントラー) 溶融重合メッキ仕上げ  
 床 〇鉄筋コンクリート下地ビニル床タイル貼り(コーテラ 専り) タイルカーペット貼り(ルシェロ 専り) 体育館用フローリング貼り 花崗石貼りJP仕上げ  
 欄干 〇ビニル補木貼り 壁 〇PB19.5+12.5下地EP  
 天井 〇鉄筋トラス付きデッキ工法(ニューフェローテック 富士昭サンマテック)の上EP PB19.5下地EP



1F PLAN 1/400



2F PLAN



軒下のデッキスペース。軒の出を2.9mとし、軒下を2.1mに抑えた。保育室と園庭をつなぐだけでなく、独立したスペースとして、異年齢の交流の場所となっている（46ページまでの写真：小川 昌雄）



**えいの里保育園**

兵庫県明石市 設計 岩田章吾建築設計事務所

**住宅用部材で大屋根を**



様々なアクティビティーや家具配置の変更などに際しても空間イメージを損なわないように、「屋根=天井」を空間規定の主要要素と位置付けた

えいの里保育園は兵庫県明石市の江井島地区に新設した定員90名の保育所だ。敷地は海岸から500mほど内陸の田浜国道沿いに位置し、周囲には農地や住宅、低層の工場などが混在する。子どもたちが日々の大半を過ごす保育所は、子どもにとっての「生活の場」であるべきと考え、「みんなと過ごす大きなおうち」として設計した。

基本形式は木造平屋建て。園庭を囲むように園舎をコの字型に配置し、片流れの大屋根を架けた。外壁は周辺に建つ民家の焼きスギの下見板になじむよう黒く塗装したスギの下見板を採用した。

園庭に面した箇所は全面的に開口を設け、構造壁は外部側の壁体に割り当てた。こうして内部空間と園庭とのつながりを高めるとともに、周辺との境界を明確にすることで、「大きなおうち」としての象徴的な全体性を実現した。さらに、大屋根の架構形式を内部空間の規模に応じて変えながら反復することで、空間としての連続性を生み出している。家具の配置変更などにも柔軟に対応する。架構は、桁方向には105mm角の柱を1.82mピッチで配した。梁方向の長さは部屋の規模に応じて6.7～9.2mとして、そこに45×290mm

の垂木を45mmピッチで配した大屋根を載せた。部材はできる限り一般的な住宅で使われる材料を使用。金物類が見えないよう、納まりを工夫した。

大屋根の側面側の軒先高さは2.1mに抑え、大空間が園児の身体感覚からスケールアウトしないよう心掛けた。大屋根上部に配したダクトは、夏季には大屋根に設けた空気層や大空間上部の暖気を外部に排出し、冬季には暖気を床下へ送る。これによって空調負荷を低減している。

（岩田 章吾＝岩田章吾建築設計事務所）





制作室兼食事室から3~5歳保育室を見る。保育室は年齢ごとにクラスを分けているが、空間的な区画は緩やかにした。ただし、0~2歳と3~5歳は制作室兼食事室を挟んで配置し、明確に領域分けを行っている



中庭から見る。一部を除いて木造平屋建てとし、園庭を囲む形で、保育室、遊戯室を配置。そこに「みんなですごす大きなおうち」の象徴としての大屋根を架けた

えいの里保育園

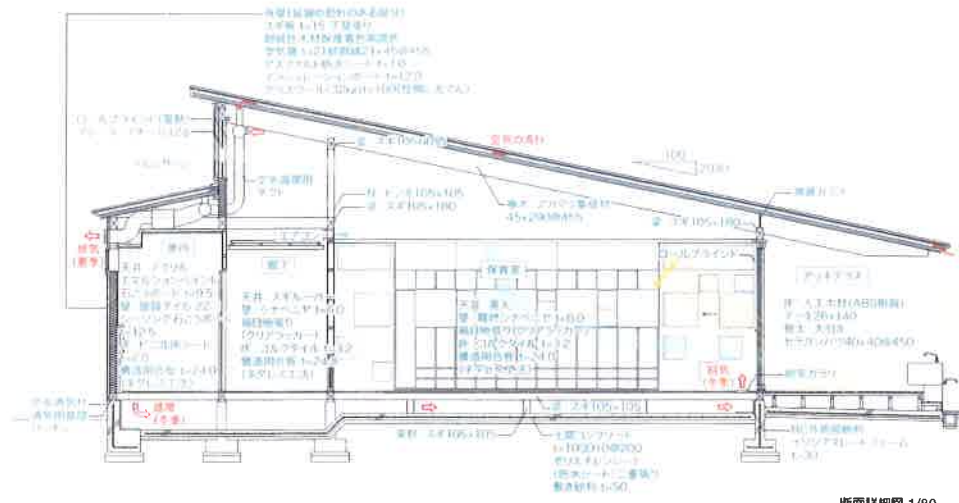
所在地：兵庫県明石市大久保町江井島960-1  
 区：保育所 施設種別：第1種住居地域、法2条指定地域、市街化区域、第4種高度地区  
 敷地面積：59.32%（許容60%） 建築面積：62.76%（許容200%） 延床面積：1318.02㎡ 総棟数：781.82㎡  
 延床面積：827.2㎡ 用途：本館  
 階数：地上2階 基礎：布基礎 高さ：最高高さ7.63m、軒高7.32m 柱間隔：1.82m×6.71m  
 発注者：社会福祉法人履歷会 設計・監理：岩田豊喜建築設計事務所 設計協力：建築構造企画（構造）、技術エンジニアネットワーク（設備）、AZU設計工房（照明デザイン） 施工名：四ツ橋組 施工内容：西部電気建設（電気・太陽光）、トータル（空調）、清久工業（給排水）、大見設備（ガス） 竣工：2009年2月~10年8月 竣工期間：10年10月~11年3月 竣工種別：非公開

【外観仕上げ】

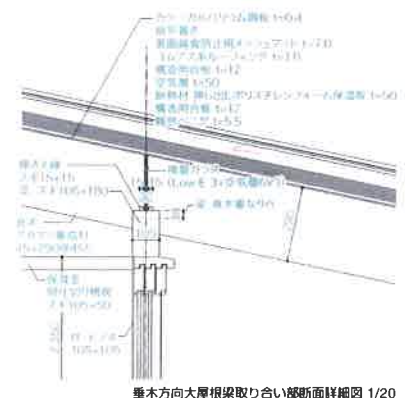
屋根：カラーガルバリウム鋼板 一文字貫き  
 スギ板下見張り、浸透性木材保護黄色剤塗色  
 外壁：ベイマツ引き違い障（陶器側）、アルミサッシ（両面側）  
 床：ティフンミ張り（陶磁）、人工木材デッキ（デッキテラス）、インターロッキング（エントランス舗装）

【内観仕上げ（主要部室）】

床：コルクタイルt=3.2mm 雑器シナベニヤt=6.0mm、クリアラッカー  
 壁：雑器ラワンベニヤ、黒木アカマツ集成材t45×290mm



断面詳細図 1/80



垂直方向大屋根根取り合い断面詳細図 1/20



軒先部詳細図 1/20

平面図 1/500

## 岡本ハーベスト保育園

所在地： 兵庫県神戸市東灘区1丁目-11-5

主要用途： 保育園

建主： 社会福祉法人ハーベスト

設計・監理： 岩田章吾建築設計事務所

施工： 株式会社明和工務店

敷地条件： 地域地区： 第1種住居地域・岡本地区街づくり協定・地区計画・岡本駅南

都市景観形成地域

道路幅員： 3.5m

規模： 敷地面積： 913.10㎡

建築面積・建蔽率： 544.76㎡・59.98%

延床面積・容積率： 954.63㎡・105.1%

階数： 地上3階

1階： 517.89㎡

2階： 358.39㎡

3階： 78.35㎡

最高高さ： 9.917m

軒高： 9.917m

天井高： 2.700m~3.645m

構造： 鉄筋コンクリート造

外部仕上： 屋根： アスファルト断熱防水、一部塗膜防水

壁： コンクリート下地調整の上、ジョリパット

開口部： アルミサッシュ

内部仕上： 床： ナラ無垢フローリング(保育室は床暖房)

壁： コンクリート下地調整の上、ジョリパット

天井： 石膏ボード下地の上、岩綿吸音板またはコンクリート直天

工程： 設計期間： 2006年2月~2006年5月

工事期間： 2006年9月~2007年3月



中庭： 緑のマウンドを介して子どもたちが自由に走り回れる場



外観(夜景)

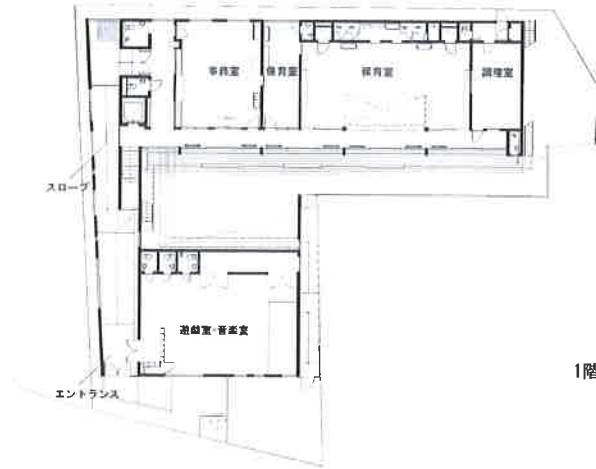


エントランス

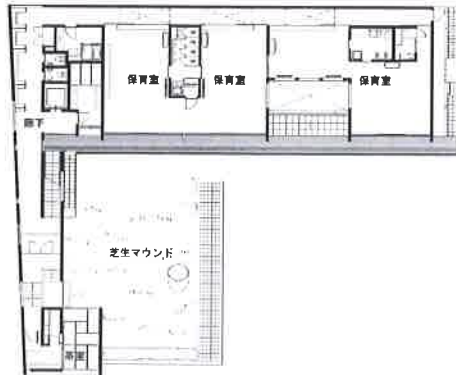


吹き抜け





1階平面図兼配置図



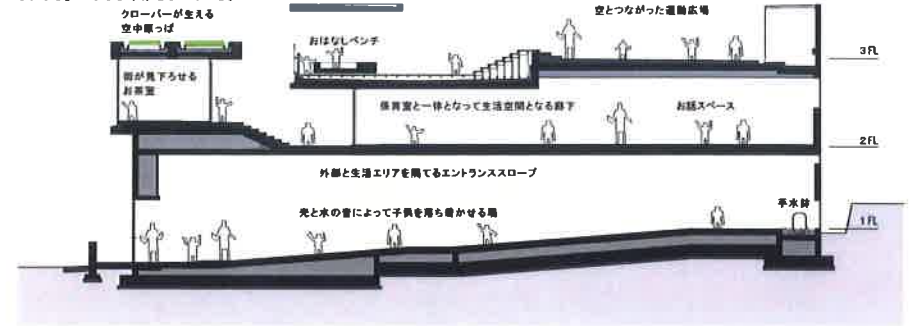
2階平面図



3階平面図 SCALE 1:400

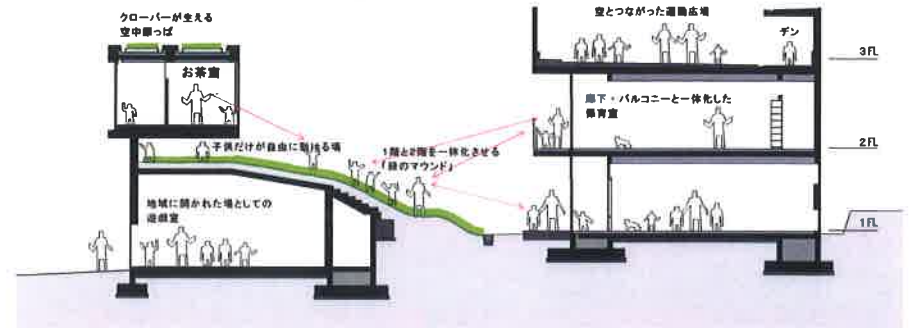
### セキュリティのシステム：悪意ある他者の侵入を防ぐ壁（おきなおうち）としての保育園

不特定の人々が多量に集まる都市の駅前においては都市に対して開かれている建築より、むしろ都市に対して閉じた建築（悪意ある他者から守る壁）のほうが重要だと考え、施設の配置は修造院や城塞都市のようなセキュリティのヒエラルキーが形成できるように構成した。つまり、乳幼児の居住エリアは後方に配置され、エントランスマスロープがこれらのエリアを外部から空間的に隔てるバッファーゾーンとなっている。地域の子育て支援の拠点としても位置づけられている遊戯室は他のエリアからは切り離され街路に開いて設けられており、近隣住民は外壁にもつけられた開口から子供たちの活動が伺うことができる。周囲に壁をめぐるした建物外観は通常の保育園の外観とは異なり、子供たちを預かる施設ではなく子どもたちが生活する「おきなおうち」のような印象となっている。



### アクティビティのシステム：子供の生きる力を呼び起こす「緑のマウンド」

遊戯室の屋上と保育園1階を緑の法面として連続させ、子供の活動の場である「緑のマウンド」として整備した。雲梯などの道具をつかった遊びは屋上で行い、この緑のマウンドは子供たちが自分の体を使って駆け、滑り、転がることで彼らの生きる力を呼び起こす場として位置づけた。また、緑のマウンドは大きな怪我をしないために小さな怪我をする場ということもできる。当初は転んだりする子もいたが、芝のためほとんど怪我はしなかった。そして、現在では子どもたちはほとんど転ばなくなっている。



### エコロジーのシステム：空間を一体化させ、光と風が通りぬける開口部

内部は吹抜けや、家具や重具に設けられた開口などによって各部屋が連続した空間となっている。吹抜け、開口は保育室間に視覚的連続性を生み出すだけでなく、建物全体に自然光や、風の流れをもたらしっている。芝生マウンド地中には吹抜け上部から防風を排出することで、地中で冷やされた冷気が建物内を流れるように計画し冷房負荷を低減している。また、屋上緑化は、和室、遊戯室の防風負荷を低減するだけでなく、園庭からの雨り漏しによる熱負荷も低減している。

